

# スペシャリストに聞く

# MONDAY INTERVIEW

hausseco(ハウセコ、本社大阪府中央区)は、換気棟や屋根役物・壁役物などの住宅用換気・通気外装部材を、ワンストップで供給する国内でも数少ないメーカー。同社の神戸陸史社長は、社名刷新による統一ブランドの推進、大学や研究機関との連携・研究活動への参画、一般社団法人住まいるの屋根換気壁通気研究会の立ち上げなど、ユニークな活動を展開している。主力製品を通して日本の住宅環境におけるいくつかの課題も見てくる。住宅用換気・通気外装部材のトップメーカーである同社の事業や団体活動を通じた取り組みについて、神戸社長に話を聞いた。

—日本の都市型一戸建て住宅で増えている問題に注目している。

「都市部を中心にキューブ型住宅と呼ばれるデザイン住宅が増えている。その背景として1つには、狭小地など限られた土地の中で最大限の居住空間を確保する必要があるので、もう1つはシンプルでデザイン性の高い住宅に対するニーズが一段と増えていることがある」

「こうしたデザイン住宅では、斜線制限等により建物の高さが取りにくい分、屋根の勾配を緩くしたり、屋根の軒先部分を壁から大きく出さない、場合によっては屋根の先端がほぼ壁と同じ位置で、軒のほとんどない「ゼロ軒」にしたりという設計が多くなっている。また、住宅用太陽光発電の普及によって、片流れ屋根(屋根が一方のみに傾斜した形)や、緩勾配屋根との相性から金属屋根を採用するケースも増加傾向にある」

—どのような問題が出てきている。

「日本は四季の気温変化が大きく、湿度が多いのも特徴。雨水が住宅の屋根や壁から浸入しにくい構造にする必要がある。土地に比

## 日本の住宅環境における課題

### hausseco社長 神戸 陸史氏



かんべ・むつひと1991年ミサワホーム入社。鹿児島支店・大阪支店勤務。96年ハウセコ入社。07年から社長。47歳。

# 住宅外皮の通気・換気 専用部材で解決

較的余裕のある一戸建て住宅は、軒を大きく出すことで雨水が軒天と壁の取り合いから入りにくいようにするが、都市部のデザイン住宅では難しい。屋根こう配が緩いことも雨水が滞留しやすい要因になっている。小屋裏(屋根と天井の間)はもともと湿度がこもりやすく、換気・通気的重要性は一層高まっている」

「屋根と壁の接点である『取り合い』部分や、バルコニーやパラペット(屋上ベランダなどの低い壁)部分では、換気・通気の確保と防水を適切に両立させることが重要なのだが、設計や施工の中で意匠が優先されて、見逃されやすくなっている。入隅部も、湿度がたまりやすいにもかかわらず、十分な通気が確保されていないケースが多い。そうした住宅で新築から1年、2年といった短期間で劣化事例が増えている」

## 研究会発足、理想を模索

「換気部材、屋根役物・壁役物、関連商品を幅広く」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「専務理事に松尾和也・一級建築士(松尾設計室社長)、特別顧問には独立行政法人建築研究所の坂本雄三理事長(東大名名誉教授)、顧問に石川廣三・東海大名誉教授と、岩前篤・近畿大学教授建築学部長に就いていた。木造住宅の耐久性や温熱環境に詳しい専門家の方々を役員に迎え、顧問の先生方の知見と会員

「14年11月に「一般社団法人住まいるの屋根換気壁通気研究会」を発足。理事長に就任した。研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

「研究会の目的は、設計士や施工管理者を対象に、住宅の雨仕舞いと屋根の換気と壁の通気について、理想的な住まいを模索し研究すること、そのための会員・学識経験者相互の交流。設計事務所や各地域の工務店、大学・研究機関・製品メーカーなど約50の企業・団体に参加していただいております。参加者の方々の意識は非常に高い」

**会社概要**  
1964年5月、神戸雅弘(現会長)が三栄建材として設立。卸売業から始め、工事、リフォーム製造などを行い、91年にハウセコに社名変更。2012年に本社を堺市から大阪市に移転した。この間に卸売業・工事業・リフォーム業は撤退・再編。14年4月に現社名に変更。資本金3000万円。従業員約1000人。

「住宅の雨仕舞いや屋根換気・壁通気に関する研究の位置づけは。『住宅の室内換気については、これまで体系的に研究され、世の中にも重要性が広く認識されている。一方、住宅外皮の換気・通気については、そうした実績がなかったし、今も確立されてはいない。研究会の立ち上げに参画された先生方をはじめ、私たちはその先頭を走っているという自負を持っている」

「住宅外皮の換気・通気に関する研究が、体系的に確立されていない背景として考えられる理由は。『外皮の換気通気という分野は、ある種センセーショナルさがなく、地味で地道な研究であること、ファジーな部分が多いこと、地域や立地によって条件が異なること、などが挙げられる。そうしたこともあって、住宅の外皮に関する設計事務所や工務店を対象とした研究会、また、学界・製品メーカーなどをつなぐ横断的な組織というものがこれまでになかった」

「住宅外皮の換気・通気に関しては、各地域でさまざまな課題や問題点を会員の方が抱えており、研究会は問題解決につながる場を提供し、日本の理想的な住まいを目指す集まりということ、社会貢献にもつながると考えている」

「事業活動に話に移るが、自社のブランド戦略にもこだわりを持って取り組んでいる。12年に「hausseco」ブランドを立ち上げ、14年4月に社名も統一した。ブランドに対する考え方は。『hausseco』のブランド・社名は、旧社名ハウセコ(エイ)のハウセ(ドイツ語で家の意味)とecoを組み合わせたもの。2年間かけて取引先へ

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

「それが東日本大震災以降は、エネルギー問題や環境という視点が重要となり、今の住宅のキーワードには「パッシブ」や「ゼロ・エネルギー住宅」、「スマートウェルネス」といった言葉が登場する。こうしたキーワードに『外皮の換気・通気』も加わるくらい、住宅業界やユーザーに広く認知してもらえようように取り組んでいきたい」

(戸次 達也)